

環境大臣 伊藤 信太郎 様

森吉山の価値と未来を考える会

代表 宮野 貞壽

要 望 書

森吉山国定公園の新規指定と
拡張地域等の要望について

2023年(令和5年)11月28日

<連絡先>

NPO 森吉山ネイチャー協会内

0186-73-2510

森吉山国立公園の新規指定と拡張地域等の要望について

1. 森吉山は国立公園の新規指定を選択します

私達は、過去 30 年以上に渡って森吉山本体、奥森吉、奥阿仁の傑出した景観の保全と鳥獣保護、質の高い利用の増進を図る観点から、自然公園法に基づく森吉山国立公園の昇格を目指してきました。

今般のフォローアップによって、森吉山が新たに国立・国立公園の新規指定・大規模拡張候補地として選定されたことは、長く森吉山の自然保護に携わってきた山岳関係者にとって、時代がようやく追いついたものと評価するものです。

さて、環境省は八幡平周辺(森吉山・和賀山塊・真昼山地・田沢湖抱返り・太平山)の取り扱いについて「国立公園区域の拡張又は国立公園の新規指定」という選択肢を示しました。このことは、森吉山は「十和田八幡平国立公園に編入か又は新規国立公園の選択」を呼びかけるものであり、その公園区分の選択に当たっては「地域の意向と熱意」によって決定する旨を指し示しているものと理解をしております。

私達は「公園名称の消滅と変更」は、地域にとって将来的に大きく影響する一大テーマであるとの観点から「十和田八幡平国立公園編入」ではなく、「森吉山国立公園の新規指定」を選択するものです。

「なぜ 国立公園を選択するのか」。一般市民、商工会サイド、市議会、県議会の動向も紹介し、その考察を述べて理解を求めるものです。

先ず、環境省が拡張地域に選定した八幡平周辺の原生的自然環境の評価が、奥羽山脈の南北をつなぐ生態系ネットワーク形成上も重要であるとの評価を得たことと、公園の管理体制や分割論議などの社会的要因に伴う編入問題が、「国立公園拡張ストーリーの受け入れ」を一層難しくしていることを指摘しなければなりません。

特に十和田八幡平国立公園は、65 年前に八幡平地区が編入して誕生したことから、二つの公園区間が直線で約 45 キロも離れ、南北約 130 キロに及ぶ連続性がない国立公園となっています。これに和賀山塊を挟み真昼山地まで拡大し、更に田沢湖抱返り・森吉山が編入されると南北約 165 キロに及び、十和田八幡平の冠は意味を失ってしまうものと考えます。

形成史や歴史と文化、経済圏が異なる圏域の低山を連ねて国立公園に編入しても、その価値は国立公園と同列に並ぶものではありません。日本一いびつな国立公園が誕生することを危惧するものです。

そして、森吉山の国立公園編入は冠を捨て去ることに他なりません。市内の小中高校歌に唱え、朝な夕なに仰ぎ見る北秋田市の象徴である森吉山は、歴史的・文化的・民俗学的価値を越えて、北秋田市民にとっては自分自身というものを確認するアイデンティティーそのものであります。

森吉山の冠を捨て、十和田八幡平国立公園の中に甘んずる意味とは何か。名を捨て、実を取る意味はあるのか。見返りに得る果実は今のところ見当たりません。

森吉山はいま、戦後復興時の木材供給の山から再生と復活の山に向っています。山頂部は花の百名山と日本三大樹氷原。山腹の源流域を取巻くブナ帯。奥森吉はクマゲラの森と箱庭の溪谷群。奥阿仁はマタギの里の名瀑めぐり。復活のフィールドはトレkkerが集う時代を迎えました。新たな時代の使命を付加した、森吉山国立公園の早期誕生を望むものです。

2. 拡張地域の提案と既存公園内の地種区分の格上げについて

私達は、森吉山の公園区域の拡張地域を景観の保全、天然林の再生、将来の利用増進地域に分類し、その全域が生物多様性の保全機能を併せ持つ地域であるとの観点に立って選定しました。自然環境調査等の重点地域に組入れることを要望します。

また、既存公園内の森吉山山体を取巻く標高700m以上の源流部を形成するブナ帯の多くが機能類型区分の木材生産林となっています。併せて生物多様性の保全に立脚した地種区分の格上げをお願いします。

<具体的な拡張地域と地種区分格上げ地域>

拡張地域	土地	拡張地域等の特徴と整備指針
① 太平湖の全 集水域	国有林	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然公園区域外(森林休館利用林)に及ぶ太平湖東部から北部地域の全集水域が対象です。 ● 戦後復興の秋田杉搬出や拡大造林計画によるブナ伐採地のスギ植林地が成長せず、天然林が見事に再生しています。
② 小又川と森 吉山ダムの 流域	国有林 県有地 市有地 私有地	<ul style="list-style-type: none"> ● 奥森吉の玄関口の森吉山ダムを起点にした、太平湖につながる小又川流域は、濃密な生物多様性と渓谷美が重なる奥森吉への序章にふさわしい空間です。 ● 湯ノ岱地区は菅井真澄の「雪の秋田寝」にも登場する歴史的な場所で、奥森吉観光の宿泊行動拠点となってきました。集団施設地区の再指定地(森吉山荘のリニューアルと温泉資源の確保、野営地・白糸の滝探勝路の再整備)です。
③ 森吉山西麓	国有林 社有林	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴンドラ遊覧で眺める石森～森吉神社～一ノ腰まで続く西麓一帯の広大なブナ林はゴンドラ観光のパノラマ展望地区です。
④ マタギの里 山里地と打 当川流域	国有林 市有地 私有地 入会地	<ul style="list-style-type: none"> ● 奥阿仁の玄関口である比立内地区を起点とする打当川流域は、マタギの里にふさわしい、里山里地の生態系を温存する未来に残すべき日本の原風景です。 ● 集団施設地区の候補地(打当温泉マタギの湯を起点終点に、名瀑めぐりシャトルバスターミナルの整備、遊遊ガーデン・内水面試験池を包括したビジターセンターの整備地)です。
⑤ 阿仁川と秋 田内陸線及 びその沿線 の里山里地	国有林 市有地 私有地 入会地	<ul style="list-style-type: none"> ● 小又川、小様川、打当川、比立内川を束ねる阿仁川とその里山里地を内陸線で「つなぎ、みせる」ためのツールとして阿仁川流域と内陸線及びその里山里地の二次的自然景観を森吉山国定公園の新規指定に組入れるものです。
地種区分	土地	地種区分格上げ地域の特徴
① 奥森吉の立 川源流域	国有林	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園内の森吉山山体標高700m以上の源流域を形成するブナ帯が木材生産林になっています。公園内の景観保全と天然林保護に立脚した地種区分の格上げが必要です。特に、奥阿仁は里山に連なる源流部であり、奥森吉のブナ帯はアオモリトドマツから連続する最後に残された水系の源です。
② 奥阿仁の打 当内沢と岩 井ノ又沢源 流域		

<添付資料>

1. 森吉山国定公園昇格運動の変遷

●森吉山の国定公園昇格運動は、森吉山山頂部スキー場開発計画が自然保護団体や山岳団体(以下 山岳関係者)の反対によって、大手デベロッパーの国土計画(株)が断念を表明(1990年)したことを契機に、開発を推進した秋田県が「自然環境の保全優先を求める県民世論と観光振興を両立させる構想」として「国定公園化」という自然保護に舵を切ったことが始まりです。

●山岳関係者から国定公園化要望を受けた旧森吉町は、議会の合意を得たが、旧阿仁町は山頂部スキー場開発を求める声を説得できず、昇格運動は一旦棚上げとなりました。

●その後、山岳関係者は森吉山の山腹に残るブナ林の保護と国指定鳥獣保護区の拡大に運動の軸足を転換。その結果、奥森吉と奥阿仁の源流部に及ぶブナ林は危ういところで伐採を回避。国指定鳥獣保護区特別保護地区は330haから3.5倍の1,175haに拡大され、今ではクマガラの森の愛称で多くのトレkkerに親しまれています。

●2007年以降、国と地方の役割分担や環境省が進める国立・国定公園の新規指定や分割の見直しを契機に、北秋田市議会や県議会では、再び国立編入や国定昇格の優位性を問う議論が活発化。

●2017年3月、北秋田市は市議会等の要請に応え「森吉山県立自然公園公開セミナー」を開催。公園区分を選択する提出資料が乏しかったため、意見は十和田八幡平国立公園編入論と冠を残す国定公園推進論に分かれ意見集約はできず、具体的な推進表明には至りませんでした。

●2022年6月14日、環境省から時代を一気に跳び越す朗報(2010年に続く国立・国定公園総点検事業フォローアップ結果)が発表されました。山岳関係者4団体は、動きが鈍かった北秋田市に推進を求める要望書を2023年2月に提出。その要望に応えてくれた北秋田市長は、環境省サイドへ早期昇格を求める要望書提出(6/10・7/24)しています。

●4団体は国交省東北地方整備局 能代河川国道事務所にも、森吉山ダムを公園の拡張地域に組入れる案を説明。事務所としては「ダム管理に支障が無ければ公園指定に異論はない。大いに盛り上げてください」との応援がありました。

●北秋田市は、4団体の要望に応え、6月24日に森吉山の価値と未来「国立・国定公園に向けて」のシンポジウムを開催。

・基調講演

①「新しい生物多様性の国際目標と森吉山」

環境省東北地方環境事務所 次長 羽井佐 幸広 氏

②「夢と冒険 モンベル7つのミッション」

株式会社モンベル代表取締役会長 辰野 勇 氏

・パネルディスカッション「自然公園の保全と地域振興」

○コーディネーター 名取 洋司 氏 (国際教養大学准教授)

○パネリスト 羽井佐幸広 氏 (環境省東北環境事務所 次長)

辰野 勇 氏 (株式会社モンベル代表取締役会長)

佐藤 健太 氏 (北秋田市地域おこし協力隊)

※4団体が要望したシンポジュームのテーマは、拡張調査地域(案)を環境省に提示し調査を加速させること。森吉山を十和田八幡平国立公園に編入、または新規国立公園の選択は市民から意見を聴取する場を設けることでしたが、森吉山に関する説明の乏しさに加え、参加者からの意見や質問の機会も与えない、という異例のシンポジュームで終わりました。

●上記シンポジュームが不協和音に終わった為、私達は9月16日に市民を対象にタウンミーティング「もっと知ろう 国立・国立公園昇格の選択について」を開催。

※鹿角管理官事務所・市議・県議・一般市民の出席を得て、フォローアップ結果の分析、森吉山の拡張地域の提案、自然環境整備事業の仕組み、私たちは「なぜ 森吉山新規国立公園を選択するのか」等々、多岐にわたって情報交換を行いました。

●11月15日には、4団体と東北森林管理局 米代東部森林管理署 上小阿仁支署と情報交換を行う。

※上小阿仁支署長は環境省からの説明や動きは一切ないので何もわからない。

※北秋田市の動きを新聞紙上で把握しているだけ。

※4団体は北秋田市に提案した拡張地域(案)について説明し、公園区域内の地種区分の格上げについても、生物多様性の保全に配慮した機能類型区分の選択をお願いしました。

2. 市民、商工会サイド、行政関係者の国立・国定議論の動向

① 一般市民の関心度

●一般市民の生物多様性の保全に係る国立・国定公園の新規指定や拡張方針は、身に迫る地球温暖化問題に比べればその関心度は希薄である。森吉山が単独国立公園になると勘違いしている人に、森吉山が十和田八幡平国立公園編入か又は新規国立公園の選択であると問えば、十和田湖という距離感から、編入などありえないという返答になる。

●また、国立公園になればネームバリューが上がり、国が何でも整備してくれる。という錯覚を持っている関係者も多いようである。

② 商工会サイド

●商工会サイドは、2017年3月に森吉山国立公園昇格運動連絡協議会の設立発起人会を立上げ、市長に会長職を求めたが設立に至らず。環境省がフォローアップ結果で国立編入は新規国定指定の選択を示した後の10月に動きを停止した。

●その理由は「公園区分の選択は三県を跨いだ広域的な課題が多岐に及んでいるため、市が決定する事案である。法律的な裏付けや拡張地域など地理的なフィールド力がない。発起人14団体は公園区分の選択をリードできる法的知識や情報力を持っていない」とし、私たちにその方向性を委ねたいとのことであった。

③ 北秋田市議会の動向

●フォローアップ結果発表前の国定公園昇格の動きに対し、明確な国立論者の一部市議は「国定公園などは地方公園に変わりはない。国定格上げは目先の都合にとられる安易な方法。将来を考えて決して得策とはならない。森吉山の名称が使われなくなるという心配もあるが、岩手山、乳頭・秋田駒も同様である。名を捨てて、より大きな実を得るために十和田八幡平国立公園に編入することが道理である」(2016/12)

※「国立公園などは地方公園に変わらない。名を捨てて実を得るためには編入が道理である」などという認識は、全国 58 ヶ所の国立公園立地都道府県に対する侮辱に値し、北秋田市民全体の見識をも問われ兼ねない発言である。何故ならば、国立公園の面積要件を満たす国立公園は 10 カ所に及び、日本百名山は 15 座を数え、日本二百・三百名山を謳歌している。県内外の山岳関係者らは北秋田市の動向に関心があり議会発言にもアクセスしている。第二の「じゃこ天」問題にならぬことを願っている。

※フォローアップ結果発表後、私たちの情報提供や国立公園選択理由の提案を伝えたことから、市議会議員の際立った国立論の発言は無く、専ら北秋田市唯一の独立峰森吉山の独立性、独自性のブランド化推進を目指す方向にあるようです。

●市議会は 9 月 29 日に「森吉山エリア国立・国立公園化推進議員連盟」を設立した。国への要望活動や研修会開催、市民や各団体との意見交換会などを通じ、森吉山一帯の国立・国立公園化の早期実現を目指すとしている。

④ 津谷市長の発言

●市長は、4 団体の要望書(2023/2)に対して、次の感想を述べています。

・環境省発表の国立・国立拡張と格上げ計画は、国際公約を待たずにもっと早く進めてほしかった。

・他の自治体の情報や、拡張地域についても具体的な提案を聴き、今後の調査の課題も浮かび上がり参考になった。

・十和田八幡平国立公園分割の話も聞いているが、今回の発表には無いようだ。

・大規模拡張と言っても、今のままでの国立公園編入では合意が難しいと思われる。

・山岳関係者の皆さんが国立昇格ありきでなければ、一気に国立昇格ではなく、北秋田市単独の森吉山は国立公園の階段を踏んでからでもよいのでは、と述べています。

●十和田八幡平国立公園編入か新規国立公園の選択について、環境省は「地域の意向と熱意」を尊重するとしているが、市産業部サイドは「早く調査を開始し、国立編入か新規国立の方向性を示してもらおうことで、その後の調査を早期に進めていきたい」との立場を示す。

※「30by30by」に伴う拡張地域の調査と公園区分の選択に関しては、別の視点で進める問題であるが、市サイドはすべて環境省の資質調査待ちたい。というスタンスをとっています。

※環境省は「地域の意向と熱意」によって公園区分を決定する旨を示しているが、市民や各種団体の意見集約も環境省の資質調査後と取れる質疑が繰り返されています。

※市長は私達が提案した拡張地域案についても、拡張地域に合致するものなのかも含めて環境省の資質調査の結果待ちたい。というニュートラルな姿勢を変えていません。

※拡張地域の資質について市長の心配を払拭するため、「30by30by」に伴う地種区分の要件を説明。拡張地域は自然公園の許可規制がかからない普通地域でも対象になる。例えば、阿蘇くじゅう国立公園の南北 25 km・東西 18 kmのカルデラ内の平地と周辺で 7 万人余りの人口を有する、1 市 3 町 2 村の市街地・農地・里山のほぼ全域が国立公園の普通地域である。とすれば八幡平周辺の選定地域で対象外となる地域は皆無である。北秋田市の総面積 1,152 km²の約 40%が国立公園に成り得る計算にもなる。

⑤ 県議会の動向

●2015年以降、県議会では地元県議らによる国立・国定公園格上の可能性について調査がはじまった。北林丈正県議の調査によると、当時の環境省の見解は、国立編入は極めて厳しいとのことであったという。それは、「森吉山の自然要件が編入にふさわしい条件を満たしているのか、また仮に満たしていても、編入や分離は関係自治体の同意を必要とする」とのことから、その調整の難しさは想像に難しくない。国立と国定を同列に並べ天秤にかけるものではない。との感想を述べている。

●北林議員は県議会予算特別委員会総括審査(2022. 12. 19)で、環境省が八幡平周辺の大規模拡張候補に森吉山県立自然公園などが選定された報道について質問。「観光誘客などのメリットは大きい。全国の選定自治体では環境相への陳情もすでに行われている。受入れ体制が整った地区から調査が始まるとの声も聞かれる。発表以来いまだ地元市町村の動きがない。関係市町村と連携して早期実現に取り組むべきだ」と指摘。

●北林議員の質問に対し、佐竹知事は「国立・国定の区分もあるが、まずはこの機会を逃さないように県として協力できることは全てやりたい」。真壁 生活環境部長も「県が音頭を取って8月に環境省から関係市町村に説明をしてもらった。調査の具体的なスケジュールはまだ示されていないが、関係市町村の意向を聞きながら連携して県の役割を果たしていきたい」と述べている。

⑥ 和賀山塊・真昼山地・田沢湖抱返り・太平山の動向

●北秋田市を除くと、環境省の発表に対し仙北市・大仙市・秋田市の動きは見えない。
※第三者の立場で述べると、岩手・秋田両県2市4町にまたがる和賀山塊と真昼山地は、白神山地に匹敵する原生林を温存する山塊である。車窓観光中心の八幡平地区と異にする山塊は、縦走路から東には和賀川流域が深く横たわり、西に鳥瞰すれば瑞穂の仙北平野の海原が浮かぶ。公園区分の姿はおのずと導かれるであろう。

⑦ 乳頭温泉郷組合等の十和田八幡国立公園分割議論

●北東北三県(青森・秋田・岩手)にまたがる十和田八幡田国立公園の十和田湖八甲田地域と八幡平地域は、時代が求める利用増進の使命を掲げ、共に地域経済の波及効果を求め社会的連携を深めてきた。しかし発展的な地域のブランド力に視点を置いた分割論と名称変更の声が高まっている。

●集団施設地区にも入る乳頭温泉郷(乳頭山麓に点在する七つの宿と七つの湯)の関係者は、十和田八幡平国立公園の八幡平地域の分割議論を行っている。「一度は行ってみたい日本の温泉郷ベスト20」にランキングされる乳頭温泉郷としては、同じ十和田八幡平国立公園の十和田湖八甲田ではない、八幡平地域の乳頭温泉郷ブランド化が視野にあるという。今は公園所在地の市町村と観光協会等の反応や温度差を探っている段階であるが、いずれはシンポジウム等を開催し、具体的な分割議論を深めていきたいとのことだ。

●乳頭温泉郷の環境省所管の集団施設地区のキャンプ場の案内板は「十和田八幡平国立公園」の表記はあるが、一帯の道路標識や休暇村の宿泊施設には、過去にあった十和田八幡平国立公園の表記は消え「ここは乳頭温泉郷」「休暇村乳頭温泉郷(National Park Resort)」の表記のみだ。国立公園のブランドが薄れた感が大きい。